

図書館だより

第 28 号(2010 年 1 月号)

城西大学水田記念図書館

図書館ホームページ <http://libopac.josai.ac.jp>

図書館メールアドレス library1@josai.ac.jp



図書館ボランティアを通して

数学科3年 稲場 亜矢子

私は後期の教職総合演習の授業で図書館のボランティアをさせていただいています。ボランティアの内容はバーコード貼り、本の整理、ポップ作り、各教科への資料作成、お勧め図書コーナー作りでした。

図書館にある大量の本一冊一冊に手作業でバーコードを貼ったり、本棚の決められた位置に本を丁寧に整頓したりしました。利用者に図書館の本をより知ってもらうためでした。

私たちはこの体験をとおして、一つ一つの作業がとても細かく大変なものであると気づきました。そして私たちのために、これらの作業を日々行ってくださる図書館員の方々の大変さとありがたさを身をもって知りました。そして私もマナーを守り、感謝の気持ちを忘れず図書館を利用すべきだと再認識しました。

私が将来教員になったときには、今回のボランティアを通して学んだ事を、しっかりと生徒に伝えて行きたいと思いました。

なれない点も多く、いろいろとご迷惑をおかけしましたが、温かく迎えてくださり、優しく丁寧に対応してくださった図書館の職員の方々にとても感謝しています。

貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

数学科3年 小林 菜摘

私は、10 月より教職総合演習の授業の一環として、図書館でボランティアをさせていただいています。このボランティア活動を通して、本当にいろいろなことを学ばせていただいています。

私が最初驚いたこと、それは図書館を管理・運営していくためには、多くの人の力が合わさっているということです。恥ずかしながら、私は、図書館のほんの一部しか知らなかったのだということを思い知りました。図書館には多くの職員がいらっやって、様々なお仕事をされています。図書館をより便利に、使いやすいように工夫を凝らしたり、新しい本の管理をしたり、その本をきれいに並べたりしています。ほかにも、まだまだ多くの仕事があります。

私たちが普段図書館を使いやすいのは、多くの方の力があつたからだということを改めて知ることができました。それらを形作る背景や人の力があることを、この図書館のボランティアを通して学ぶことが出来ました。そして、今回このようなボランティア活動をさせていただくことで、図書館のさらなる魅力を知ることが出来ました。

これからも職員の方に感謝をしながら、図書館を利用していきたいと思います。

稲場さん、小林さん、ご協力ありがとうございました。



今月の図書館企画 健康レシピ+スイーツ特集

今月の図書館企画は「食」をテーマにお届けします。

生きとし生けるものはすべて「食」という大きな枠組みの中にいるわけですが、それによって満たされるものは単に空腹だけではありません。

食卓の快樂について、美食家として著名なブリアー・サヴァランは著書「美味礼讃」でこう述べています。

「・・・我々はあらゆる信仰の中で最も厳粛な信仰のもとにありながら、結婚の時も洗礼の時も、いや葬礼の時にすら、御馳走を食べるのである」

ただ栄養をとる、というだけではなく、その美味しさ、もてなしの心、そういった部分にも食の素晴らしさは宿ります。栄養をとるだけなら錠剤でも結構。しかし、真に心まで元気にするものは何かといえ、それは料理に他なりません。

多岐にわたる料理の中でも、薬膳は医学的効能を高めつつ料理としても成立させるという、先人たちの知恵と工夫の結晶の一つです。今回の展示でも薬膳を中心にいくつか資料をそろえてみました。意外な材料の意外な効果など、本を手にとっていただければその神秘にふれることができると思います。

また、食といえば外せないものが甘味。菓子といえば技巧を凝らしたものを連想しますが、その歴史は極めて古く、発祥ははるか古代エジプトまでさかのぼります。

菓子の発展には地理や歴史、それに政治や宗教が密接にかかわっていました。エジプトでは神殿への供物として菓子が製造されていたほか、長すぎる会議のために生み出されたケーキの傑作「ザッハトルテ」の逸話など、その成り立ち、美味の裏側には料理に勝るとも劣らぬ歴史が込められています。

食べるだけではない「食べ物」の奥深い歴史と謎の世界を、ぜひ覗いてみてください。

参考文献 ブリタニカ国際大百科事典/フランク・B.ギブニー編 3階参考図書 031//B74//
貴婦人が愛したお菓子 今田美奈子 著 開架図書(3階) 596.6//141
美味礼讃 / ブリアー・サヴァラン著;関根秀雄, 戸部松実訳
開架図書(3階) 596//Sa92//1、2

館内特別展示「DVについて」を行いました

昨今、耳にすることも稀ではなくなったDV(ドメスティック・バイオレンス)ですが、その理解度はいまだ高いとはいえません。実際の被害だけでなく、「それは単に夫婦の問題」といった周囲の無理解によっていっそう事態が深刻になるケースもあります。

2009年の内閣府男女共同参画局の調査では、女性の配偶者の四人に一人が身体的な暴力を受けている、という衝撃的な報告もされています。また見過ごされがちですが、言葉による脅しや暴力もかなりの件数に上ります。近年では恋人間で起こる「デートDV」も大きな問題となりつつあり、DVは近親者間の問題というだけではなく、公衆衛生の問題であるともいえるでしょう。

今回の特別展示は経営学部的女性キャリア研究グループ(山口理恵子先生担当)の発表によるもので、この問題に対してわかりやすい書籍から、実際の法律についての資料などを展示しました。



テーマに沿った図書を **WebcatPlus** をつかって連想検索してみる

Webcat Plus は、国立情報学研究所が提供するサービスの一つで、人間の思考方法に近い検索技術「連想検索機能」と書名や著者名を使って必要な図書を探すことができる「一致検索」の二つの検索機能を備えています。

レポートの課題に沿ったテーマの図書を探したいときや、タイトルは思い出せないが著者名がわかるときなど、Webcat Plus は、いろいろな場合に応じて適切な図書を簡単に探すことができます。

連想検索(オレンジ色の検索画面)で検索してみる

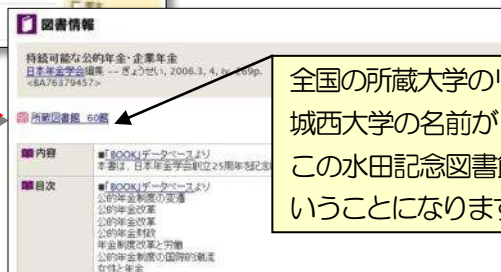


キーワードだけでなく、文章での検索もできるのが特徴です。

検索結果からはさらに関連していると思われる「関連ワード」も提示されるので、チェックを入れて再度検索すれば、より精度の高い結果を得ることができます。

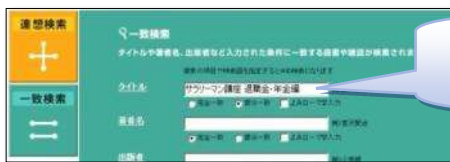


リンクをクリックすれば本の内容や目次などの情報が得られます。



全国の所蔵大学のリストも見られます。城西大学の名前がリストにあれば、それはこの水田記念図書館でも所蔵している本ということになります。

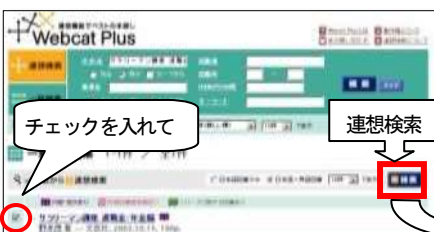
一致検索(緑色の検索画面)で検索してみる



書名や著者名がわかっている場合、それに合致するものを検索します。

さらに応用として

検索結果にチェックを入れて **検索** を押せば、その図書にかかわりのあるものを連想検索します。



チェックを入れて

連想検索



選択した図書の内容をキーワードにして連想検索します

WebcatPlus は図書館ホームページ(<http://libopac.josai.ac.jp/>)の下部にあるクイックリンク集か、国内データベース一覧の項目よりアクセスできます。

見つけた図書が大学に所蔵していない場合には、相互貸借サービス(ILL)で必要なコピーや現物を他大学より取り寄せることができます。

図書長期貸出のお知らせ

在学生は1月24日から長期貸出期間です。

返却日は4月8日になります。

☆卒業年次生の貸出期間は**3月10日**までです。

返却を忘れないようにお願いいたします。

返却は郵送でも受け付けています。確実にお返してください。

☆1月16、17日は大学入試センター試験のため休館となります。

[城西大学機関リポジトリ]の名称を募集しています。

城西大学では教育研究活動の成果をネットワークで公開するための「機関リポジトリ」の準備を進めており、年度内の公開に向けてリポジトリの名称を募集しています。

応募先は電子メール: libir@josai.ac.jp か、図書館カウンター前の応募ボックスへ。締め切りは1月15日(金)までです。採用された方には図書券を贈呈します。ふるってご応募ください。

自著紹介 「固体有機化学」 理学部化学科 教授 小林啓二

これまでに「固体化学」と題した書物は数多く出版されていますが、「固体有機化学」とは、聞き慣れないタイトルに感じることでしょう。

従来の「固体化学」は固体物理学と接点を持つ金属や半導体あるいは誘電体などの無機化合物が主な対象であって、「固体化学」といっても実は「無機固体化学」であったのです。しかし、前世紀の後半以降、有機化合物が関わる固体物性の分野が急速に発展し、現在では化学の最先端の分野として成長を見せています。さらに近年、X線結晶構造解析が容易になるとともに、有機化学を専門とする人たちも、分子構造だけでなく、分子の配列、つまり結晶構造を基にさまざまな議論を行なうことが多くなってきました。

これまでの有機化学は主に孤立分子の構造、性質、反応を研究対象にしてきたのですが、現在では、多数分子が集合した究極の状態、すなわち結晶構造が関わる現象にまで視点が広がったということが出来ます。たとえば、薬学分野で議論される生体利用率(bioavailability)は結晶多形と深くかかわっているの、まさに固体有機化学の問題といえるでしょう。

このような状況にあって、有機化合物の固体化学を体系的にまとめたカリキュラムやあるいは書物は見当たりませんでした。そこで、有機化学徒向けに「固体有機化学」のシラバスは斯くあるべきと言う、一つの提案とも言うべき内容を盛って、教科書あるいは自習のための入門書を書いてみました。有機結晶における分子間相互作用から始まり、多形、同形、キラル結晶などの結晶構造、結晶中の分子の動的挙動、固相反応、さらには電気伝導性や磁性などの固体物性に至るまで、基礎となるさまざまな概念、理論、実験法を中心に、そして何より有機化学であることを強く意識して、わかりやすく説明をしたつもりです。このような視点で体系化された書物はこれまでに類がなく、著者としてはかなり精魂込めた仕事を仕上げた気分です。

「固体有機化学」の言葉が、今後、研究だけでなく教育の中にも広く受け入れられ、この分野のさらなる進歩を促すことができれば幸いです。

「固体有機化学」 小林啓二、林直人 共著 (化学同人・2009年 256p/22cm/A5判)

寄贈いただきました図書、受け入れが済みましたら配架します。

